

平成二十六年入学試験問題（前期日程）

小 論 文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

注意事項

- 一、受験番号を解答用紙の所定の欄に記入すること。
- 二、解答は、必ず解答用紙に記入すること。問一は表面、問二は裏面に書くこと。
- 三、解答用紙の他に、下書き用紙を配付するので、取り違えないよう注意すること。
- 四、解答時間は、一五〇分である。
- 五、縦書き、鉛筆（シャープペンシルを含む）書きにすること。

非公開

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

問題

非公開

非公開

非公開

非公開

非公開

問一 本文の論旨を六〇〇字以内でまとめなさい。

問二 芸能や芸術の価値をどのような尺度ではかればよいか、本文を踏まえた上で、あなたの意見を六〇〇字以内で述べなさい。

（小田嶋隆 『人形遣い』の器量は、分からないもので分かる）

二〇二二年七月十三日（金）、抜粋・一部改変

<http://business.nikkeibp.co.jp/article/life/20120712/234415/?P=1>

5の計五ページ分

平成二十六年入学試験問題（前期日程）

小 論 文

法文学部 国際言語文化学科 琉球アジア文化専攻

出題の意図

国際言語文化学科の琉球アジア文化専攻は、琉球・沖縄および日本・アジアの諸地域の、歴史・民俗・文学・言語への理解を深めることを目指している。したがって、この専攻への入学希望者には、当該地域の文化の成り立ち及びそうした文化を生み出す社会の仕組みに対する深い関心と理解力が求められる。問題文は、大阪市の文楽への補助金カット問題に対して、伝統芸能のもつ価値について論じたものである。本出題の意図は、文楽という長きにわたって継承されてきたものに対する筆者の主張を正確に読みとり、論旨を的確に把握できるかをみることにある。加えて、伝統芸能と商業主義的芸能や芸術の価値を論じた文章に関する、受験生の思考力や論理構成力、言語表現力などをみることにある。